

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 2月分

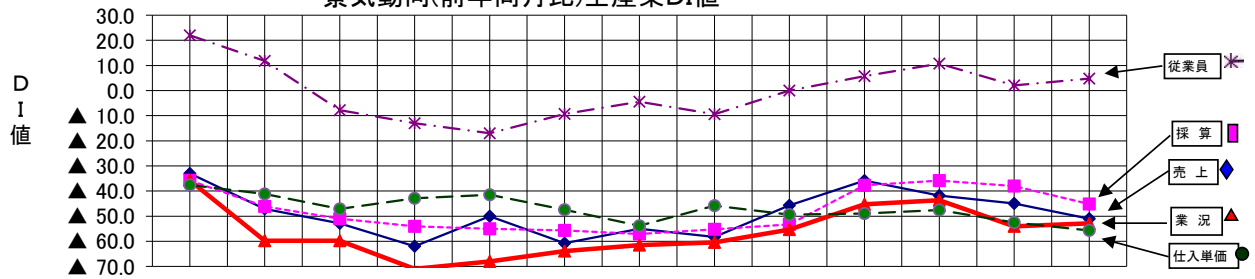
【2月の概要】

飲食業を中心としたサービス業は深刻な状況が続く一方、 製造業・小売業等で年度末の需要拡大への期待が高まる

DI値は「業況」が若干改善したものの、それ以外すべての項目で悪化した。一方、先行き見通しについては、「売上」「採算」「業況」の各DI値が10ポイント以上の改善となった。

寄せられたコメントでは、引き続き新型コロナウイルスによる影響が大きいとする回答が多くを占め、特に飲食業を中心とするサービス業では深刻な状況が継続している。一方で、製造業や小売業では年度末にかけて需要拡大の見通しとする声が多かった。今後、ワクチン接種が進行し、コロナ禍収束に向けての道筋が早期に見出せることを期待する。

景気動向(前年同月比)全産業DI値



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2020年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021年1月	2021年2月
売上	▲ 33.0	▲ 47.1	▲ 52.9	▲ 62.0	▲ 50.0	▲ 60.8	▲ 55.0	▲ 58.3	▲ 45.7	▲ 35.9	▲ 41.8	▲ 45.0	▲ 51.0
採算	▲ 35.8	▲ 46.1	▲ 51.0	▲ 54.0	▲ 55.0	▲ 55.7	▲ 57.1	▲ 55.2	▲ 53.3	▲ 37.7	▲ 35.9	▲ 38.0	▲ 45.2
業況	▲ 35.8	▲ 59.8	▲ 59.8	▲ 71.0	▲ 68.0	▲ 63.9	▲ 61.5	▲ 60.4	▲ 55.4	▲ 45.3	▲ 43.7	▲ 54.0	▲ 52.9
仕入単価	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 47.1	▲ 42.9	▲ 41.5	▲ 47.4	▲ 53.8	▲ 45.8	▲ 49.4	▲ 49.0	▲ 47.5	▲ 52.5	▲ 55.7
従業員	22.0	11.8	7.8	13.0	17.0	9.3	4.4	9.4	0.0	5.7	10.7	2.0	4.8

- ・プラス幅が増加したDI値：従業員2.8ポイント
- ・マイナス幅が減少したDI値：業況1.1ポイント
- ・マイナス幅が増加したDI値：売上6.0ポイント、採算7.2ポイント、仕入単価3.2ポイント

全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
12月	▲ 38.8	▲ 34.0	▲ 41.8	▲ 3.9	12.6
1月	▲ 32.0	▲ 37.0	▲ 45.0	▲ 18.0	1.0
2月	▲ 15.4	▲ 24.0	▲ 29.8	▲ 23.1	4.8

- ・見通しが改善したDI値：売上16.6ポイント、採算13.0ポイント、業況15.2ポイント、従業員3.8ポイント
- ・見通しが悪化したDI値：仕入単価5.1ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	電機	昨年7～12月の業況より持ち直している。経費削減、助成金活用等で利益は計上できる見通し。
	左官工事	天候不順と元請け受注減が重なり業況は良くない。
製造業	印刷	3～4月は業界的な業務集中期に入るため、売上高は増加する見通し。
	板金	少しずつ受注が戻ってきている。短納期の物件が多く人材確保が厳しい状況。
卸売業	住宅機器	1,2月の需要低下は新潟では毎年のごとく。3月からは自然と向上することが予想される。
	青果	県の警報を受け外食・宿泊業は引き続き厳しい。大雪による農作物被害の影響も心配である。
小売業	百貨店	3月は「人が動く、物が動く時期」であるため、売上、客数、客単価ともに上昇する見込み。
サービス業	清掃	ウィズコロナを念頭に、どのように共生していくかが今後の課題。
	飲食	緊急事態宣言の影響は大きい。前年30%で推移。経済の実情に合わせた全国一律の助成金等の支援を求めたい。
	タクシー	業績悪化の要因は人の移動減少につきる。売上減少や対策経費の増加で業界全体が疲弊している。